

# 倫理 第19回「日本儒教史① - 朱子学と陽明学-」

○今回のポイント

## I. 儒教の伝来と朱子学

### 1. 日本人と儒教

- ・ 儒教伝来…513年 百濟より【① \_\_\_\_\_】が儒教を伝える  
Cf. 『古事記』の記述に王仁による伝承のエピソード →5世紀ごろには伝来か
- ・ 古代…大和政権の受容。聖徳太子の憲法十七条。律令国家の仁政  
→【A. \_\_\_\_\_】
- ・ 中世…禅僧により朱子学が伝来。戦国時代末期には藤原惺窩が登場。  
【② \_\_\_\_\_】…仏教を捨て儒学者に転向。公家や僧侶に学ばせていた儒学を独立させ儒学定着の端緒と成した。徳川家康にも儒教を講義。惺窩から始まる朱子学を京学という。
- ・ 近世…幕藩体制が成立してから大きく発展  
→権威と権力の問題

伝統的権威によらず、実力で支配体制をつくりあげた幕府が、儒教を利用してその統治を正統化する理論とした。

### 2. 上下定分の理

- ・ 【③ \_\_\_\_\_】…江戸幕府のもとで朱子学の官学化をおしすすめる。

#### (1) 居敬窮理

理…万物をつらぬく理論、天理ともいう。

「天は高く地は卑し、天は高く地は低し、上下差別あるごとく、人にもまた君は尊く、臣は卑しきぞ」

【④ \_\_\_\_\_】…つつしむ。欲望を抑えて精神をつつしむ。

} 敬によって心と理を一体化

=【⑤ \_\_\_\_\_】

→上下関係を尊ぶ。

#### (2) 【⑥ \_\_\_\_\_】

理=天理 →万物の間には上下尊卑の秩序がある。人間社会の法則としての人倫の道も同様。

→封建社会の身分秩序を正当化する=君臣関係では君は尊く臣は卑しい。

父子・夫婦・兄弟のあいだでも同様。

#### (3) 【⑦ \_\_\_\_\_】…敬（つつしみ）をもって心を保ち、上下の身分秩序に従って行動する。

## cf. 朱子学と幕藩体制

敬によって私利私欲を厳しく戒め、理(天理)との一体化を求める教え

→ [B. \_\_\_\_\_]

- [⑧ \_\_\_\_\_]…6代家宣・7代家継治世下で正徳の治。元禄期の幕政を修正。儀式典礼を整備した。
- [⑨ \_\_\_\_\_]…対馬藩に仕え朝鮮との善隣友好外交に努力した。
- [⑩ \_\_\_\_\_]…敬(つつしみ)を臣下の内面を正す道として強調。  
→ [⑪ \_\_\_\_\_]…儒家と神道を結合。天皇崇拝による封建的道德を説く。

## II. 陽明学

(1) 孝の徳 [⑫ \_\_\_\_\_] → 朱子学批判

朱子学の敬はうわべだけの形式主義で、行動と心の在り方が一致しない

↓

[⑬ \_\_\_\_\_]・[⑭ \_\_\_\_\_]・[⑮ \_\_\_\_\_]…時と場所と身分に応じて道徳を実現していく。

↓

[⑯ \_\_\_\_\_]…愛し敬う心(愛敬、まごころをもって人に親しみ、上を敬い、下をあなどらない)

→ 宇宙万物をつらぬく普遍的な原理。人間の内面に根差し万人に共通する道を求める。

(2) 日本の [⑰ \_\_\_\_\_] の祖

- [⑱ \_\_\_\_\_]…孝の奥底には、すべての人は是非を正しく知ることができる能力は備わっている。
- [⑲ \_\_\_\_\_]…良知を行いにあらわすこと。行うことは知ることの完成である。

cf. [⑳ \_\_\_\_\_]…庶民の道徳に貢献。朱子学が持つ反面合理的・批判的精神の側面から「信ずべきを信じ、疑うべきを疑う」として実証主義的精神を唱え、西洋科学を受容する素地を作った。

## III. 補論 ～江戸時代の仏教はどうなっていたの？～

現代の仏教 → 葬式などで根強く日本文化に残っている ⇒ 葬式や法事の制度は江戸から

[21. \_\_\_\_\_] (檀家制度)

- 江戸幕府がキリスト教を禁じるために、民衆を仏教の寺院に帰属させ、その信徒であることの証明を寺から請けさせた制度。幕府が寺院を通して民衆を統制する。
- [22. \_\_\_\_\_]  
→ 民衆はいずれかの寺で檀家になることを義務付けられており、その時に作成された戸籍。引越しや旅行の際には、その寺の檀家であることを証明する [23. \_\_\_\_\_] が必要とされた。
- 葬儀の整備  
→ 家には仏壇が置かれ、葬式や法事の際には、僧が招かれるようになった。寺院にとっては収入が保障される経済的な基盤となった。